

第1問 例年通りテーマ史。すべて1問2点も例年通り。ここ2年間は高校生書いたレポートという形だったが、4年ぶりの会話形式だった、とか別にどうでもいいなあ。

- 問1 IIは保元平治の乱。源頼信・頼義・義朝という人名だけで並べ替えるはず。
問2 a. 鎌倉期の御恩は地頭職の補任。大番役など御家人の差配は守護の仕事。
問3 ①天領は江戸。②惣掟は惣村の自治。④石高は銭に換算しない（米量の単位）。
問4 ①は戦国以降 ②鎌倉時代は最初は分割相続制
③寄親寄子制は戦国大名の家臣の擬制的な親子関係。
問5 ①幕府が重用したのは朱子学。熊沢蕃山＝陽明学者は、合っている。
問6 どちらも正しい。ありそうであまりないストレートさで、かえって迷ったかも。

第2問 古代。今回は原始の出題がゼロだった。文化が多かったのは吉か凶か…。

- 問1 Aの史料は初見だろうが、主語が蘇我馬子であることから推測は容易。
問2 ある皇子とはもちろん聖徳太子。
②倭の五王の遣使の説明、③倭国大乱から卑弥呼の共立、④は『古事記』。
問3 ④荘園や奴婢のこと想起すれば良いが、ちょっと細かい問題。
問4 ③滝口は平安宮の中の内裏の中の清涼殿の庭。天皇家と摂関家を守衛する。
問5 a. 安和の変の説明
b. 応天門の変で失脚したのは、伴善男一族のほか紀豊城・紀夏井も。やや細かすぎる。
ただ、他の選択肢が割と簡単なので消去法で解ける。
c. 写真を見れば瓦を使っているのが分かる。dも同様。
問6 Iは摂関政治、IIは院政、IIIは平安初期（嵯峨朝）。今回は時代並べが多かったね…。

第3問 中世。今回は原始の出題がゼロだった。文化が多かったのは吉か凶か…。

- 問2 法然は平安末～鎌倉初。平重衡や熊谷直実も帰依したことを授業で話したけど覚えている？
問3 典型的な写真問題。①室生寺金堂、②東大寺南大門、③宇治平等院鳳凰堂、④円覚寺舍利殿。
ちなみに①は平安初期、③は国風文化である。
問5 Iは応仁の乱、IIは応永の乱、IIIは嘉吉の乱。
問6 Xは博多でa（dは堺）、Yは一乗谷でc（dは北条の小田原）。2年続けて地図問題が出たけど、都道府県に一つまでという前例は守られた。

第4問 近世。ちなみに問4・6は幕末だが、どの教科書でも幕末は近代に分類されている。

つまり今年は、例年より近世が少なく近代が多いことになるが…。

- 問1 「かぶき者」は分からなくとも、「無宿人」でないことは分かるだろう。
問2 正徳の治の説明。X. 新井白石は「日本国大君」を「日本国王」に変更している。
問3 甲は尾形光琳の装飾画「燕子花図屏風」。乙は人形浄瑠璃。正誤の判定は、写真より選択肢の文の方が重要だった。

問4 **エ**の「講武所」がやや細かい。もっとも、年代を覚えていなくても、「実技を中心とした軍事教育」だから「開成所」（のちの帝国大学）ではないだろう、という推測は可能。

問5 Iは正徳の治、IIIは享保の改革、IIは蘭学が発達した化政文化の範囲。

問6 ①文久の改革のこと。

②将軍後見職になったのは斉昭の子の一橋慶喜。

③上知令が対外防備の強化でもあったのは正しいが、時期が違う（天保の改革）。

④文久の改革の中には参勤交代制の緩和が含まれる。

ちなみに、幕末が独立の小問として出たのは2006年の追試以来。

第5問 近現代。経済と民権運動の關係に注目した良問。

問2 ③初代内務卿は大久保利通、次が伊藤博文。

問3 b. 茶は近世以前から国内で十分生産されていた。

d. 官営八幡製鉄所の建設には、日清戦争の賠償金が使われている。

問4 Iの開拓使官有物払下げ事件は自由民権運動のピーク時（豪農民権）のことであり、IIIの台湾出兵は征韓論下野の直後であり民権運動の初期（士族民権）なので、III→I。IIは昭和。

第6問 近現代史。「人物シリーズ」は、尾崎行雄→幣原喜重郎と来て、まさかの渋沢栄一とその孫。ホントにシリーズ化しそうだが、祖父と孫を使うのなら、候補者は無限に増える。

問2 ①第一次山県内閣。選挙大干渉を行った内務大臣は品川弥二郎。

②第一次伊藤内閣。外国人判事問題で批判された外務大臣は井上馨。

④第二次大隈内閣。当時の外務大臣はのちに第二次護憲運動の一翼を担う加藤高明。

問3 日本国有鉄道は現在のJRの前身。森有礼は学校令を発した文部大臣と明六社で有名。前島密と言えば1円切手。

問4 Iでは国会開設を「求めて」、IIIでは国会を開設するという「勅諭（天皇の約束）」があり、IIで選挙権が決まったのだから、この順序になると文章の脈絡だけでわかるはず。

問5 ①「海軍」なので五・一五事件と分かる。昭和初期。

②軍部大臣現役武官制は明治後期の第二次山県内閣で定められた。

③婦人参政権を治安警察法改正と仮に広く解釈しても第一次大戦後のこと。

問6 統計を使った問題。満州事変や昭和恐慌の年代を覚えていなくても、表から、鉄鋼生産は途中から伸びていて、民営工場実収賃金はほとんど変わらず、農産物生産価格は一時落ち込んでいることは読み取れる。すると該当するのは1組しかない。

問7 今年は戦後史は高度成長までだった。穏健である。Iは1960年代（東京オリンピックとほぼ同時期）、IIは70年代（石油危機直前）、IIIは50年代のこと。

問8 ③河上肇は大正期に活躍したマルクス経済学者。

※各予備校の予想平均点は59～62点あたりですが…どうかな？